


陳 述 書

令和4年2月17日

氏 名 近藤 純 

1. 私は、藍住町にてラーメン店「王王軒（わんわんけん）」を経営しており、徳島ラーメンをはじめ23年目となります。王王軒では約20人ほどの従業員が働いています。私がここまでやってくることができたのも、王王軒石井店を経営している  や、20人もの従業員の多大な支えがあったからだと感謝しております。従業員の中には開店当初から20年も勤続して下さっている年齢70代を超える方々もおられます。今の私があるのも、この方々のおかげだと思っております。

2. 令和2年3月に新型コロナウイルスが全国に感染拡大をし、徳島県にも拡がりを見せはじめました。私のお店も3月下旬ころから、売上が落ち、第一波と呼ばれる同年6月ころまで、今までに経験したことのない経営悪化と多額の赤字を出しました。

しかし、7月に入り、GOTO キャンペーンなどもあり少しずつですが経営が回復し始めました。例年8月の夏休み期間中が一番の繁忙期となりますので、8月に向けて臨時の従業員を増やすシフトを組んでいました。

3. ところが、令和2年7月30日木曜日（定休日）の朝、徳島保健所から突然電話連絡があり、コロナ感染者が4日前の夕方に20分ほど店に立ち寄られた、感染拡大防止のため会見で知事が店名を公表する可能性がありますと告げられました。

私は、大変驚いたのですが、コロナのことで店名が公表されると風評被害は計り知れないことになると判断し、「困ります、やめて下さい。」と即答しました。既にコロナの第一波でお店の経営はかなりダメージを受けていました。

「8月も既に臨時の従業員のシフトも組んでいるので、休ませる訳にはいかない」「店名公表がなされるとお店が大変な状況になってしまう」「石井店の森本にも迷惑をかけてしまうので、絶対にやめて下さい」と、担当者に頼みました。

しかし、担当者は、店名を公表するかどうかは知事の権限ですので何も言え

ないとのことでした。そこで、私は知事さんに店名公表はやめて下さい、公表しないようにお伝え下さい、知事の耳のそばまで行き、しっかり伝えて下さいねと、何度も何度も電話を切る直前までお願いしました。

4. その後、再度、保健所の担当者から電話があり、現場確認と消毒指導のためのお店への訪問の話がありました。その日はお店が休みでしたが、同日夕方と翌日朝であれば対応ができると伝えたところ、保健所の担当者は他にもたくさん業務があり、私の都合がつく時間に保健所の方が店を訪れることはできないとのことでした。このため、私たちが保健所に伺ってPCR検査を受け、駐車場で消毒指導を受けました。結果的には保健所の担当者が店舗を来訪したことは一度もありませんでした。知事の権限で公表されるかも知れず、保健所の対応にとても納得ができませんでした。こちらから頼みこんでPCR検査を受めました。このことについて、県は、まるで私だけの都合で訪問ができなかったかのように言いますが、保健所の側も逼迫していてお互いの都合がつかなかったのです。

5. 他方、私は、自分や従業員のコロナ感染も勿論心配であり、お店が休みの日でもあったことから、PCR検査を受けるために私は従業員全員を連れて行きますと言いましたが、保健所の担当者は、すでにたくさんの検査があるとのことで、当初は、今日は受けられない、また別の日に個別に検査を受けにきてくださいと断られました。しかし、私は、自分や従業員のコロナ感染が心配だったので、保健所にどうしても本日中に受けさせて欲しいと頼み込んで、ようやくドライブスルー式でPCR検査を受けることができました。その日のうちに全員の陰性が確認されました。

知事の権限で店名公表をするかもしれないという事態なのに、現場確認・消毒指導の訪問もできず、PCR検査も後日にしてほしいなどということはあるのでしょうか。私は、PCR検査を当日に頼み込んで受けていて本当によかったと思っています。私も、店からクラスターが発生したり、店の従業員や他のお客様からも感染者が出たというのであれば、店名公表もやむを得ないとは覚悟はしていたのです。

6. 結局、30日の段階では、店名までは公表されず、感染者が「藍住町の飲食店」に立ち寄ったという表現まででとどまり、私は少し安堵しましたが、藍住町の飲食店全体に影響があると思うと胸の痛い思いもしました。

ところが、翌日31日の知事の会見で、店名が公表されてしまい、恐ろしいくらいの失望感と恐怖感に襲われ途方にくれてしまったことを今でも思い出

ます。知事による店名公表後、私の心境と同じく、嘘であるかのように客足がぱったりと止まり、翌日8月1日の土曜日からは更に言葉に表せない状況が待っていました。ここは危険地帯か、縄でも張られているのか、という空気があり、本当に苦しい時間が続きました。

前日にPCR検査で私や従業員が全員陰性と確認されているのに、なぜ店名公表をしなければならないのでしょうか。また全員陰性であったことはなぜ伝えないのでしょうか。県には県民の命と安全を守る義務があることはわかりますが、私にも石井店を含めて従業員やその家族を守る義務があります。PCR検査で安全が確認されているのであれば、公表の必要などなかったはずですが、県は公表をすることで失われるもののことを全く考えないのでしょうか。当時の国民県民のコロナウィルスに対する恐怖感は、未知のウィルスということもあり、現在の状況を遥かに超えるものでした。特に私が店を経営する小さな田舎町では、コロナ感染者が一人でも出れば町中が大騒ぎなり恐怖の的になるのは間違いありませんでした。

この状況で、自ら公表の同意(考える時間も与えられず)など出来るはずがありません。

7. その後、私は保健所に電話をかけて抗議をしました。そして謝罪とPCR検査で従業員が皆陰性であったことを公表するように求めましたが、応じて頂けませんでした。

私が、店名の公表を絶対にやめるように保健所の担当者に何度も何度も言ったことは間違いありません。そうであるのに、知事の会見で店名公表の同意が得られたと言われたことに納得できず、保健所の担当者から知事までどのように伝達されたか明らかにするために、保健所や県の保健部局にも電話したり、そして県庁にも伺ったりしました。そうしたところ、8月5日、保健所の■■■■氏と電話で話しましたが、その時、■■■■氏は、保健所の担当者は県に対し、店名公表について私が同意していないと伝達した、とのことでした。

でも、どういうわけか知事さんは、私が店名を公表することに同意したと会見時に言ったのでした。本当に不可解としか言いようがありません。そもそも飲食店の店名公表という重大なことにに関して、事前に十分な検討・確認をしていたのでしょうか。

8. 県からは、現在まで、謝罪はもちろんのこと、心配の言葉、思いやりの言葉、ねぎらいの言葉の一つすらありません。そのことがとても悲しいです。

コロナ対応に追われている知事や保健所などが大変なご苦勞をされていることはわかります。しかし、私は店名公表に同意をしたことなどありません。事

実と違う説明を繰り返されたことは、非常に悲しく残念です。飲食店で必死に働いている人の経営や生活のことなどたいしたことないと軽く考えているのではないのでしょうか。今からでも遅くはないので、過ちを認めて、飲食店をはじめ県民一人一人に誠実に向き合われることを願っております。

9. この店名公表から1年半以上が経過しております。その後も続くコロナ禍の中で、私の本店も、■■■■の石井店も大変苦しい経営状況が続いています。特に開業から間もない石井店はいつ閉店してもおかしくない状況となっておりますが、それでもコロナ終息を願い、それぞれ必死に頑張っております。私の本店の店名公表により、森本の石井店にも苦しい思いをさせ大変申し訳ないと思っております。

10. なぜ、必要性も緊急性もないのに、店名公表が同意もなく行われてしまったのか、二度とこのような被害が起こらないように、裁判所には真実に基づいた公正な判断をお願い致します。

以 上